

---

# コンテキスト指向・流通技術

2003年11月17日

日本電信電話株式会社  
NTT情報流通プラットフォーム研究所  
向垣内岳弥

## 目次

---

- 背景と問題
- 課題と解決の方向性
- コンテキストの定義
- コンテキストを活用した情報リソース流通イメージ
- コンテキスト指向・流通技術のモデル
- デモンストレーション紹介

# 背景と問題

ユビキタス社会では、情報リソース(コンテンツ・サービス)の増加・細分化が進む  
情報リソースを自由に選択・組み合わせることで多様なサービスが実現



必要な情報リソースを適切に選択・組み合わせることができれば



何を組み合わせるべきかがわからなければ



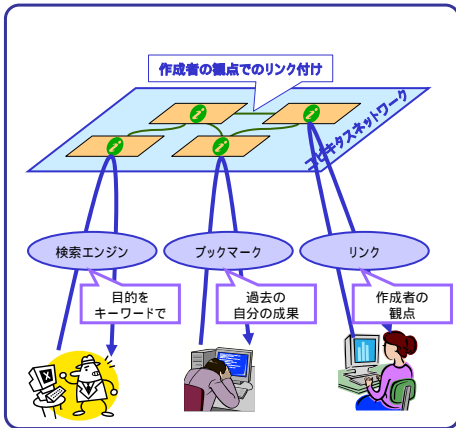
現実には、大量の情報リソースがまともになく提供される複雑な環境となる可能性が高い  
ユーザの意図どおりの結果を得ることが困難・操作も複雑  
**目標: 簡単な操作でユーザの意図どおりの結果を得る**

# 課題と解決の方向性

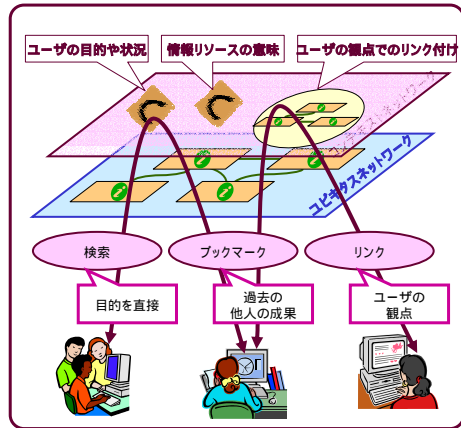
現状の情報リソース  
情報リソース作成者中心の構造



目標とする方向  
ユーザ中心の構造






ユーザの観点でのアクセスを試みている



コンテキストを利用したアクセス

## コンテキストの定義

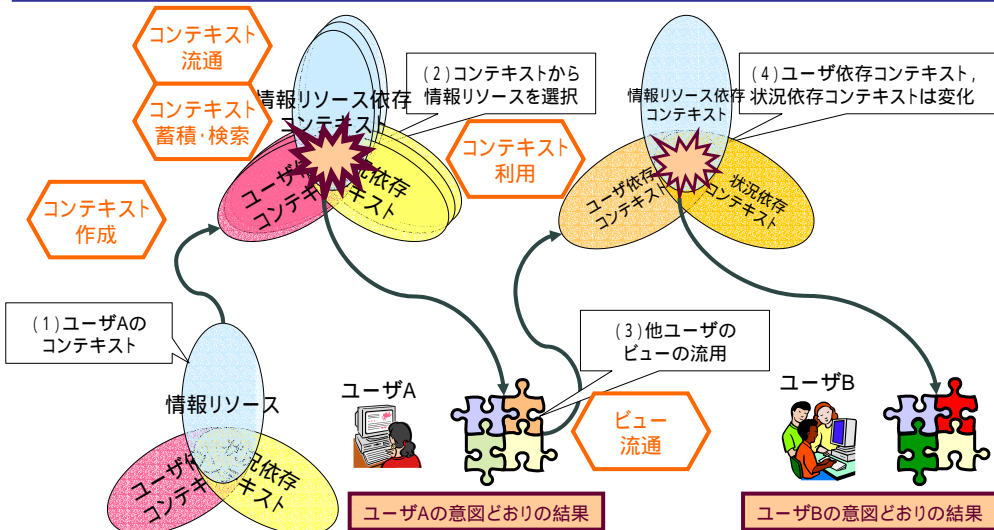
以下の対象について、コンテキストを定義

対象	内容	
情報リソース	情報リソースの分類, 意味, 作成者の意図 	情報リソース依存コンテキスト
ユーザ	ユーザの目的や意図, 属性, ユーザが情報リソースに付与した情報 	ユーザ依存コンテキスト
	ユーザの置かれた時間, 場所, デバイス 	状況依存コンテキスト

コンテキストの表現方法としてRDFを用いる。  
セマンティックWebの技術を利用可能

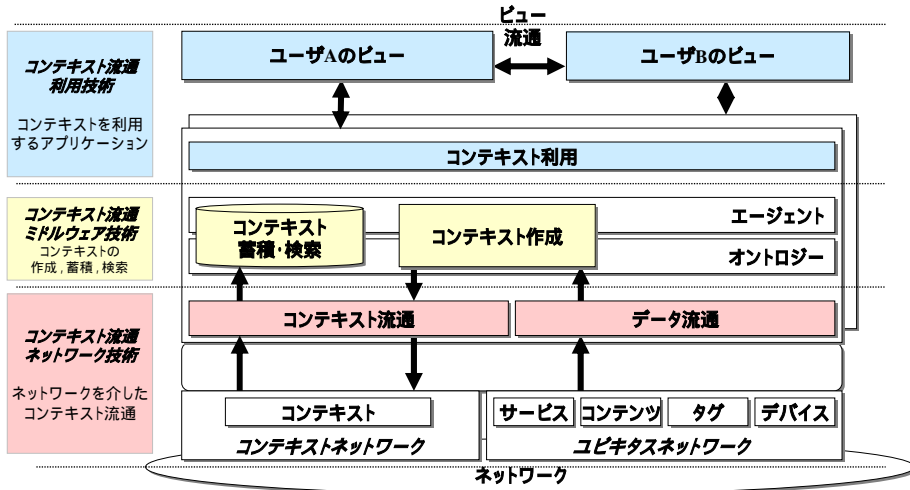
## コンテキストを活用した情報リソース流通イメージ

コンテキストを活用し、簡単な操作でユーザの意図どおりの結果を得る



# コンテキスト指向・流通技術のモデル

コンテキストを取り扱う機能の3層モデルを定義



# デモンストレーション紹介

3層モデルに従い、デモを実装

